

平成19年（2007年）3月20日発行



現在建設中の百年記念館前の広場には、桜の樹が数多く植えられている。もうすぐ美しい花を咲かせて、記念の年を華やかに彩ってくれることだろう。左は、無限を表す「メビウスの環」をモチーフとした100周年記念シンボルマーク。



学位取得おめでとう 卒業生へ贈ることば



学長 柳澤 章

ご卒業おめでとう。
諸君は、本学において体験を通して実践的な工学である「実工学」を修められ、そして今、社会へと活躍の場を移します。

実工学を身につけたことは、将来に向けて大きなアドバンテージとなるでしょう。

今日、産業界などが懸念していることの一つは、大学など工学の専門教育において、ものづくりの経験をはとんど持たない学生が、実感が伴わないままにコンピュータの画面上のシミュレーションでの学びをしていること、しかも専門領域が細分化されており、そのために消化不良を起してしまい、さらには



理事長 大川陽康

本日、めでたく学位を取得された諸君に、衷心よりお慶びを申し上げるとともに、今後の活動や研究への取り組みに関して助言を申し述べ、はなむけの言葉と致したいと思います。

ご承知のように、昨今は「知価革命」の時代と形容されるように、新たな知の創造や仕事の取り組み方に、旧来にない方法論が求められております。

本年『多元化する「能力」と日本社会』（NIT出版）で大佛次郎論壇奨励賞を受賞された教育社会学者の本田由紀さんは、新時代に問われる能力として「多様性・新奇性」「意欲・創造性」「個別性・個性」さらには

体験が培った感性と 実践力を伴った技術を携えて

消化不良にも気づいていない、という問題があります。結果として、学んだ技術が現場の問題解決に活かされにくい、応用がききにくいということです。

これに対して、諸君が修められた実工学は、例えば工具や工作機械を使うなどして、実際に手を動かして製作物をつくり上げるという実体験と工学理論を結びつける学びです。様々な現場での問題解決に幅広く応用することができるとのことです。

諸君一人ひとりの優位なポイントとしてカウントすることができるといえます。
生産現場で、新製品開発プロジェクトとしてカウントすることができるといえます。
また日本社会では少子高齢化が進み、バリアフリー製品の需要はますます高まっています。いかに人々の生活実感に基づいてプロダクトデザインをすることができるか。エンジニアの感性の勝負のしどころといえます。

造現場において、あるいは物流における排ガスなどをはじめ、あらゆる企業の直面する課題であるといえます。生産性を下げることなく、また快適な製品を提供しながら、いかにして二酸化炭素の排出削減を実現するかは、まさにエンジニアの能力が求められるところであるといえます。

また日本社会では少子高齢化が進み、バリアフリー製品の需要はますます高まっています。いかに人々の生活実感に基づいてプロダクトデザインをすることができるか。エンジニアの感性の勝負のしどころといえます。

そして21世紀は、グローバルな規模でエンジニアが競い合う状況がますます加速していくでしょう。実工学というユニークな学びを身につけて社会に羽ばたく諸君が、地球規模でダイナミックに活躍されんことを心より願っています。

このように特徴ある院生の大学院生活最後のハイライトが3月17日に行われた特定課題研究発表会（必修科目で、修士論文に相当する発表）とらえたかもしれない。

最後に、前々から懸案となっていた同窓会結成のための設立総会が去る2月10日に学長、総務部長の列席のもとに行われ、会長に林一雄氏、副会長に岡本信義氏、榎垣昌子氏、堀勇二氏の4名の一期生が選出された。同窓会を中心として更に専門職大学院卒業生の人脈が広がることを祈念したい。

知価革命時代に即して

「学び直し」の姿勢を！

「能動性」「ネットワーク形成力」「交渉力」などを挙げておられます。

これに対して従前もとめられた能力は、「標準性」「順応性」「同質性」などで、それはかような枠組みの中に収まってさえないれば、いわゆる身すぎ世すぎが叶うという、ある意味では、たいへん気楽な社会でした。

しかしながら当節は、企業社会などで折々指摘されるように、独自の思考やアイデアを果敢に開示してゆく力が要求されます。参考までに昨年2月、経済産業省が東証一部上場企業ならびに中堅・中小企業270社を対象に実施した《社会人基礎力に関

する緊急調査》によれば、専門知識など「基礎力を重視する」が93.4%とした上で、「前に踏み出す力」が59%、「チームで働く力」が27.3%、次いで「考え抜く力」が25%となっていました。

さらに、この調査をふまえて読売新聞社が昨年12月主催した《社会人基礎力シンポジウム》の基調講演で、北城格太郎氏（経済同友会代表幹事/日本IBM会長）は、「スイスのビジネススクールの評価では、先進国を含む60か国中、最も競争力が高いのがアメリカで、日本は17位」と危機感を表明。「いま必要なのは、独創性の高い商品やサービス

スをつくり出し、実用化するイノベーション」と指摘、それを実現するには、まず「熱意や意欲」、続いて「実行力や協調性」、「論理的思考力」が求められると力説されております。

しかしながら、かような要請にこたえるのは、容易なことではありません。まして厳しい競争にさらされる現代社会においては、既存の知識や技術は、急速に色あせてゆくのは必定です。従って、時代の流れに即応、独自の世界を築いてゆくには、つね日頃の弛まざる「学び直し」が肝要です。昨今は、その気になりさえすれば、生涯学習の場も事欠きません。それゆえ、どうかその点をつよく胸に刻んで実りある人生を送ってください。

終わりに、諸君の心のふるさとである本学園は、この6月に創立一〇〇周年を迎えます。つきましては学園第二世紀の発展のために、末永く力強いご支援をお願い申し上げます。

カレッジマイスター 26名誕生



ロボット創造工房



2×4木造建築工房

- 本年度のカレッジマイスター称号認定者は、以下の5工房から計26名である。それぞれの工房で磨いた技と総合的判断力を備えた諸君には、学位記授与式で「カレッジマイスター」の認定証と金メダルが授与される。
- 【型技術工房】8名
金子裕介、並木勝義、早川大介、藤井潤、宮澤博幸、山口名津子、山本学、吉田創
 - 【エンジン工房】4名
青木和央、新井秀和、上原寿史、平澤史一
 - 【ロボット創造工房】3名
安達祐樹、瀬尾祐輔、宮澤博幸
 - 【2×4木造建築工房】4名
町田成康、阿部友康、岩永和也、樽田俊文、重松量、目黒達也、小林寛
 - 【型技術工房】8名
金子裕介、並木勝義、早川大介、藤井潤、宮澤博幸、山口名津子、山本学、吉田創
 - 【エンジン工房】4名
青木和央、新井秀和、上原寿史、平澤史一
 - 【ロボット創造工房】3名
安達祐樹、瀬尾祐輔、宮澤博幸
 - 【2×4木造建築工房】4名
町田成康、阿部友康、岩永和也、樽田俊文、重松量、目黒達也、小林寛



学長から修了証書を受取る別科生代表

春のオープンキャンパス
3/24(土) 開催決定!

詳細はwww.nit.ac.jp

専門職大学院だより

ユニークで多彩な第2期生

大学院技術経営研究科
研究科長 村川 正夫

本専門職大学院は平成17年4月1日に神田神保町の地に社会人を対象とした、夜間主体の学びの舎として開設された。早いもので、すでに開校から2年が経ち、第2期生の卒業の時を迎えようとしている。

第1期生に負けず劣らず第2期生にも特徴ある修了予定生が活躍された。シニア院生としては藤野克之氏（72歳）と浅野文明氏（66歳）の二人がいらっしやる。このほかに、いわばダブルキャリア獲得組とも呼ばれているという最終試験で公認会計士と坂本真一氏（工学博士）の二人がいる。院生の皆さんにとっては審査員の皆さんにも答えなくてはならないし、緊張されたかもしれない。逆に人によっては一年間の学習成果を発表するまたとない機会ととらえたかもしれない。

最後に、前々から懸案となっていた同窓会結成のための設立総会が去る2月10日に学長、総務部長の列席のもとに行われ、会長に林一雄氏、副会長に岡本信義氏、榎垣昌子氏、堀勇二氏の4名の一期生が選出された。同窓会を中心として更に専門職大学院卒業生の人脈が広がることを祈念したい。

機械工学科

早期卒業者

平成十八年度
卒業生一覽
3月20日付
確定者

電気電子工学科

建築学科

学生代表と柳澤学長の
第5回懇親昼食会を開催



(前列左から) 柳澤学長、河又君、梅崎部長
(後列左から) 網島君、伊藤さん、中村君、築館君、菅野君、
水野君、高橋君、吉見課長

1月22日(月)、第5回目となる懇親昼食会が開催された。学生代表として学生
梅崎部長からは「大学から
4月から完全分煙を実施で
きないか」との要望があり、
柳澤学長、梅崎学生支
援部長、吉見学生支
課長が出席し、和やか
な雰囲気で行われた。
最初に学生代表の自
己紹介が行われた後、
まず話題になったのが
学内「完全分煙化」に
ついてである。学生側
から「新入生を迎える
食会をきっかけに、今後
も
と締めくくった。

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程
【建築学専攻】
【情報工学専攻】

【機械工学専攻】

【システム工学専攻】
●博士後期課程

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

【情報工学専攻】

【電気工学専攻】

◎宮代キャンパス学位記授与式
3月20日(火)

大学院技術経営研究科修了生
(予定)

●専門職学位課程
【技術経営専攻】

◎神田キャンパス学位記授与式
3月24日(土)

博士号取得 おめでとーございます

課程博士

中園君が「マイクロマウスコンテスト」で技術賞



機械工学 科中里裕一 研究室に所属する同学科4年の中園聡君（都立中野工業高校出身）が、平成18年11月26日に開催されたニューテックノロジー振興財団主催の「全日本マイクロマウスコンテスト・マイクロマウスコンテスト」において、技術賞を受賞した。マイクロマウスコンテストはCPUが開発された1970年代から続いている「元祖」ロボットコンテストで、欧米諸国はもとより、日本をはじめアジア諸国で開催されている。ロボットに迷路からの脱出を行わせる競技で、迷路の探索から脱出方法の検討まで全てロボットの人工知能に委ねられる。通常、同コンテストに出場するロボットは車輪で移動を行う機体がほとんどであるが、中園君はあえて制御が難しい歩行型の機体を作製した。歩行型のロボットがこのコンテストに出場したのは、全く初めての試み。この点が評価され、技術賞が授与された。

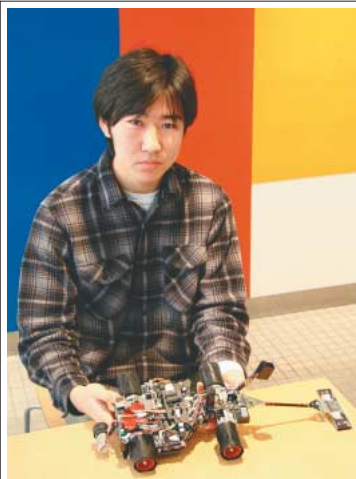
水落君が「学生Bizチャレ」で努力賞



（財）学 生サポート センターが、30数社から様々なテーマの提供を受けて募集したもので、応募総数は153点であった。水落君の提案は、お母さんが交通事故で入院した際に、保険でカバーできる内容に不満があったことから発想したという。性涵養助成事業の一環として企画した「第2回学生Bizチャレ」で、機械工学科4年水落健君の「保険に付随する新サービス」が努力賞を受賞した。今回、主催者側が協賛企業等30数社から様々なテーマの提供を受けて募集したもので、応募総数は153点であった。水落君の提案は、お母さんが交通事故で入院した際に、保険でカバーできる内容に不満があったことから発想したという。



平成19年1月8日、北海道札幌国際情報高等学校において、ジャパンマイコンカーラリー2007全国大会が開催された。この予選を勝ち抜き、全国大会出場を決めた一般の部123台の中に、佐藤宏憲君（システム工学科3年）のマイコンカーもあった。



佐藤 宏憲君 システム工学科3年 (新潟県立柏崎工業高等学校出身)

「マイコンカーラリー18位・アイデア賞受賞」

念願の全国大会出場までの道のりは長く険しいものだった。もともと、ものを作るのが好きだった彼は、高校2年の時、機械部へ入部した。朝から晩まで部屋に置いてある工作機械に向かった。高校3年の時、マイコン

に入部し、全国大会出場を目指してマイコンカーを作り続けた。過去2回の戦績は、予選コースアウトと予選9位。徐々に走行タイムを競う。傷つてはあがるが成績も調子も上向き、手応えを感じつつあった。

そこでプログラムを書き込み、独自に作製したマシンに搭載させたもので規定のコースを完走し、走りタイムを競う。傷つてはあがるが成績も調子も上向き、手応えを感じつつあった。

「彩の国ビジネスアリーナ」で 本学の研究成果を発表



バイオ技術について講演する三好教授

埼玉県中小企業振興公社などの主催で2月7～8日「彩の国ビジネスアリーナ2007」がさいたまスーパーアリーナで開催された。本学は、併催された「産

1/19 環境特別講演会 （講師・黒田聡氏）

「世界各地で進む環境対策（情報流通基盤の革新）」というタイトルで講演があった。主な内容は、インターネットなどの技術革新が社会変化に与えた影響について、開発現場における環境対応の実例などが取り上げられ、現在の情報産業と環境との関わりについて約90分間の講演であった。

第26回 新成人式講演会 ～藤岡弘、氏を迎えて～

平成19年1月11日午後6時30分から学生自治会主催による第26回新成人式講演会が開催された。当日は、サンドウィッチマンによるお笑いライブの後、藤岡弘、氏による講演が行われた。30分という短い講演ではあったが、藤岡弘、氏は成人を迎えた学生たちに、人生とは何かということを熱く語ってくれた。

高い内定率の 学内合同企業説明会

平成12年度から始めたこの説明会は、卒業生が多い企業や学生へ勧めたい企業などを選び、開催している。今年度は193社の参加を得て、2月27日から3月7日に本館で行った。昨年度は約8割の学生が参加し、そのうち約4割が内定したことにより、今年度も学生の約9割が参加するほどの盛況ぶりだ。学生の就職に対する意識の高さがうかがえた。

天満宮例祭



好天に恵まれた今年の例祭

平成19年度日本工業大学天満宮例祭が、2月24日（土）午前11時から天満宮社前にて挙行された。当日は、天満宮崇敬会から小山会長以下の役員各位、大学から柳澤学長以下、事務部課長および各学科主任、学生自治会から河又中央執行委員会委員長をはじめとする8名の代表が参列した。

編集後記

ご卒業おめでとう。胸を張って、本学での学習成果を出発点に社会、大学院等さらに自分の理想と花を咲かせてもらいたい。卒業生諸君が、必ずや栄光を克ち取ることを祈念する。人生とは、「自分にとっての栄光とは何か」を一生という限られた時間の中で、探る旅のようなものかも知れない。価値は人それぞれ異なっているから、どう行動（思考）すれば、他人（社会）の信頼を得る人間になれるかを考え、自らの価値観を確立してほしい。また、多数の卒業生諸君は「ものづくり」を支え、リードするエンジニアであるから、その世界の価値観に基づいた行動をとってもらいたい。もちろん、他人の価値観と摩擦を生じる場合も多々ある。そんな時は、他人の意見を取捨選択し、自らの価値観を見直し、謙虚な気持ちで修正を加える勇気をもってもらいたいと思う。（F）

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。